

島田墨仙

橋本左内肖像画
誕生秘話の巻

現在最も知られている橋本左内の肖像画は福井出身の画家島田墨仙作（1867-1943）のものである。



「橋本左内肖像画」（複製）
福井市立郷土歴史博物館蔵 ※原本は戦火で消失

それは明治末のこと、東京在住の墨仙のもとに福井市からの肖像画依頼がやってきたことから始まった。

キミシカ イナイ
ヨロシク タノム
フワイシ

うーん

絵・文 / 学芸員 佐々木 美帆

地元で神の如く崇拜されている左内さんを描けとはやっかいな話だなあ

理想化して描けないのよね

乗り気薄な墨仙だったが…

様々な有力者を介して福井市の方からしきりに頼まれ、最後には助役で妹婿でもある三澤敬太の押しの手でしぶしぶ了承

三澤

美兄さんの理想通り、いいかり

本まに理想でいいのね？

墨仙

しかし描きはじめると外野がうるさく描きづらいつつこの上ない。

先生はこう…ゲタのような顔で…

何故描かぬだ…

鼻がちがう

それじゃ肥りすぎだ

眼が いけませんな

2、3年がかかりでやっと下絵を仕上げた末、福井に送ったが…

おわたり

あいにくと先方は気に入らなかつたようである。

フン焼かまへ

下絵

しかしまたたつての頼みにより墨仙はしぶしぶ引き受ける。依頼人の一人である左内の弟子堤正誼男爵は手拭いで髪型指導をする熱の入れようであった。

髪型指導をする

熱の入れようであった。

お前はこん風ぞのー

髪型指導

堤正誼男爵

ようやく下絵が出来上がったのは、大正3年であった。

また下絵を焼かすとはかなわぬ、島田の気げんのよいまにこの批評文を渡してくれ

了解しました

それから20余年過ぎた昭和10年夏のこと

下絵

下絵のことなどすっかり忘れていた墨仙は身辺整理中に男爵の手紙を発見。

もらったときは読むのもユーウツでほつておいたんだよね

「顔は非常によく似ている。よくこれまでに苦心された」

国定教科書に採用される。

※この肖像画が今回小学校、師範学校の教科書の修身書に掲げられることとなり既に掛図にも作られて全国の各学校に配布されたと聞くのは、私の深く欣びとするところである。

（略）

下絵も発見

おおう…焼やがずにのこしてあげたか…

同郷の名士の間では大好評

男爵

私の筆が少しでも先生の高邁なる人格を表すことを得たとしたらこれ以上の満足はないと思ふ。」



※探影「第14巻第9号」肖像画私見」島田墨仙昭和13年9月掲載より